

# 陳情書

平成23年9月2日

小樽市議会議長 様

小樽市富岡2-30-5 電話25-1182  
子どもの環境を考える親の会  
共同代表 神 聡子  
共同代表 三ツ江真理子

## 原発からでる放射能から子どもを守るための対策を確立してください

3月11日の福島第一原発事故のあと、福島の子どもたちは外で遊べない、外出時はマスク着用するなど不自由な生活を強いられています。特に、学校のグラウンドや公園は線量が高く、200キロ離れた東京でも線量測定がおこなわれ、実際に高い線量が測定されています。

8月に入り、福島の子どもたちの健康被害が明らかになってきました。30キロ以上離れた、飯館村に住む子どもたち45%が甲状腺被ばくし、50キロ以上離れた福島市の子どもたちの尿からはセシウムが検出されました。これらは、事故後迅速なヨウ素の服用や避難誘導がなされなかったことによるものです。

泊原発においても事故が起こった場合、40キロほどしか離れていない小樽市でも、同じように子どもたちを被ばくさせてしまう危険があります。原発の稼動が続く限り、子どもたちの放射能汚染の心配はぬぐえません。万が一の時、子どもを放射能から守ることを第一に考え、早急に以下の対策を立ててください。

- ①、泊原発で事故が起きた場合、子どもたちが優先的に避難できるよう避難場所、避難方法を確立し、全学校(保育所や幼稚園含む)と保護者へ早急に告知してください。
- ②、放射能の測定を運河周辺だけでなく、各学校に1台サーベイメーターを配備し、子どもが過ごす学校の敷地、グラウンドなどの土壌や空気を毎日測定できるようにして下さい。平常時から測定することで、万一事故が起こった場合に比較できるからです。また、学校に設置すれば、学校は地域ごとにあるので、小樽市全域をモニターすることができます。(泊から30キロほどのニセコ町では、既に町で購入しています)
- ③、放射能漏れがあった場合は、ただちに子どもたちにヨウ素剤を服用させられるよう、事前に各家庭に常備させ、保護者にアレルギーの確認や服用方法などを指導してください。

※ ヨウ素剤には、副作用は殆どなく、万が一副作用がでてでもその時点で服用を止めれば問題ないというのが甲状腺科専門医の見解です。フランスやドイツでは、原発から5キロ以内の住民には事前にヨウ素剤の配布が行われているので、各家庭にはヨウ素剤の備蓄があります。

※ 原発事故による子どもの甲状腺がんを予防するためには、安定ヨウ素剤の服用が最も重要です。このヨウ素剤は、放射性ヨウ素が体内に入る24時間前から同時くらいが最も効果的で、タイミングを逃すと効果がなくなります。そのため、WHOでは、原発から500キロ圏内の住民は、常にヨード剤を携帯するよう勧告し、若年者に対しては、予測線量が10mSvを超える場合に服用することを勧めています。